

第5回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成22年6月14日（月）午前10時～正午
- 2 場 所 山科区役所 2階 大会議室
- 3 出席者 織田座長，幸田副座長，市川委員，梅本委員，奥田委員，川嶋委員，河村委員，木下委員，小山委員（代理出席），佐治委員，澤田委員，高山委員，竹之内委員，谷川委員，出竿委員（代理出席），西委員，羽立委員，日比野委員，松本委員，森委員，八木委員，山口好委員，山口幸秀委員
- 4 内 容
 - 議事①：京都市基本計画のパブリックコメントについて
 - 議事②：区内団体における意見等について
 - 議事③：平成22年度の取組について
 - 議事④：「山科区基本計画（素案：パブリックコメント用冊子）」について
 - 議事⑤：山科区基本計画素案に対するパブリックコメントについて
- 5 説明（議事①，②，③，④，⑤）

京都市基本計画のパブリックコメント，区内団体における意見等，平成22年度の取組，「山科区基本計画（素案：パブリックコメント用冊子）」，山科区基本計画素案に対するパブリックコメントについて，事務局から説明した。
- 6 承認事項
 - (1) 山科区基本計画素案の施策の体系について

5つの基本施策の下，20の基本方針と50の取組として構成することを全委員が承認した。
 - (2) 山科区基本計画素案の構成について

基本施策ごとに達成目標と達成度の指標を設定し進ちょく管理を行うこと，基本施策ごとに区民と行政の共汗プロジェクトを設定し，取組イメージを掲載すること，また，基本方針ごとに区民と行政の役割分担のイメージを掲載することを全委員が承認した。
 - (3) 山科区基本計画素案に対するパブリックコメントについて

山科区基本計画素案について，パブリックコメントを7月1日から8月31日までの2箇月間実施し，素案等に対する意見と将来像となるキャッチフレーズを募集することを全委員が承認した。
- 7 各委員からの意見要旨
 - (1) キャッチフレーズについて

山科のキャッチフレーズについては，どこの計画のキャッチフレーズかが分かるように「山科」という文言が入っている方が良い。
 - (2) 基本施策1「環境を守り継ぐ」について

観光振興の分野と関連させながら環境保護を考えていく必要がある。観光客は，ゴミを持って帰る，車ではなく歩く，もしくは地下鉄や市バスを活用するなどの制約条件を有効にアピールする発想が大事だろう。
 - (3) 基本施策2「まちの魅力・観光を磨く」について
 - 「もてなし力」というようなものが，どういう達成度で，どういう指標で表せるか検討すべきである。指標を具体的にデータで表すのは難しいので，データを指標として設定しなくても良いのではないかなかなか数字で示せないようなものは，それに代替するような説得力のある表現でも良いのではないかな。

- 観光振興において、各団体がそれぞれ取り組んでいる状況だが、一体的にプロデュースするのはとても大きなことである。他区や他都市では、観光協会など、観光を一元的に扱う総合的な団体がある。山科区でもリーダーとして観光振興をけん引していく存在が必要である。
 - 観光振興に当たり、区が一体となって力を発揮できる体制にはなっていないので、この10年を機に、住民からつくっていくしかないだろう。
 - 山科義士まつり、はねず踊りなど、バラバラになっているイベントを1年に1回の山科まつりなどとして、山科区民が全員参加することにより、若い人からお年寄りのコミュニケーションにもつなげていきたい。
 - 観光をうまくリードしていけば市民の誇りを醸成し、若い人たちが集まってくるまちに変えていくことができる。
 - 山科には、大きなお寺など施設としてそれだけで観光客を十分に集めることができる観光資源となるものは少ない。けれども一つ一つの観光資源を見ると、古代から近代まで色々な資源があり、それをつなげていくような仕掛けづくりが大事だ。
 - 観光で山科をつくることはやりがいがあり、成果も期待できる。
- (4) 基本施策3「交通・都市基盤を強化する」について
- ソフト面の整備は抽象的な文章でも良いが、やはりハード面は具体的に書いた方が良い。
 - 地下鉄になかなか乗れない、駅から遠いという方のために、東西線の補完交通としてコミュニティバス等を走らせてはどうか。
 - 阪神高速8号京都線の「稲荷トンネル」は料金が高く、生活道路になっていない。利用促進を図ることにより、国道1号の交通渋滞も緩和できるのではないか。
 - 山科は京都の東の玄関であるというが、山科には市バスが走っていない。京都駅から山科区内の各所をつなぐバスを設けるなど、行政による交通体系の整備に力を入れる必要がある。
 - 自分たちがつくるまちづくりの計画の中で非常に大事なことだと宣言する意味でも、要望事項はきちんと書いておくのが良いだろう。
- (5) 基本施策4「保健・福祉・子育て支援を充実させる」について
- 「支援」という言葉と「応援」という言葉が用いられているが、「応援」は旗を振ったらそれで良いというような印象を受ける。
 - 「青少年の非行等が多い山科区の実態」とあるが、山科区の犯罪が非常に多いと誤解され、悪いイメージを与えるのではないか。
 - 障がいのある人の社会参画について、中途障がい者のためにも、知識の単なる普及と啓発だけを行政の役割とするのではなく、具体的な対策を考えていただきたい。身体障害者相談員の制度等、体制の整備・充実が必要である。
- (6) 基本施策5「地域のつながりを強める」について
- 基本的にはやはり地元のことは地元で行うという思いが大切である。まず地元が動いて、その動きに対して行政からの支援なり応援が必要だ。各自治会長のサポート役として、行政には相談対応やアドバイスなどをしてもらいたい。
 - 「人づくり21世紀委員会」というのがあり、山科区でもいろいろな団体が参画している。そこで行う人づくりとは、子どもたちを巻き込んで一緒に行動し、そこで大人が勉強して、大人の人づくりも大きな輪になっていくという仕掛けである。そういうソフトの面が大事だ。
- (7) 計画の推進について
- 地元のことは地元で行うという気概のある山科の方々が多いので、単に取組の確認や情報交換を行うだけでなく、もう少し大きなものとして区民の位置付けを示してはどうか。
 - 区内での取組が、山科区基本計画推進会議を通じて、山科区だけでなく市内外へ広がっていくようなイメージを持つ必要がある。